

中京保健所の実習を終えて

短食2の2 土 田 浩 子

初めての外部への実習に不安と希望をもって6月9日より5日間の実習が始まった。

2回生で中京保健所に割り当てられたのが私達6名のみだったので様子もわからず、心配そうな顔つきで控室で待つていた。しばらくして栄養士さんが見え、私達は五日間をお願いした。その後所長の代理の方が保健所の機構について色々と教えて下さった。私達はすでに中村先生の「衛生機構」を受講した後なのでわかりやすく聞くことが出来た。保健所の栄養士の仕事はとても範囲が広いことを知り、先ず乳児指導の見学、続いて実施又離乳食の献立を作つたりした。次に屠殺場、森永牛乳、小学校の給食設備、京都ホテル、進々堂パン工場等の見学に一日を使つた。実習中最も私達のためになつたのは乳児指導であつた。相談室で栄養士さんの周囲に緊張した私達6名の顔に、かわいい赤ちやんがやわらぎを与えてくれた。丸々とした赤ちやんを抱いたお母さん方が、カルテを持つて私達の前に坐られた。白衣を着ているのが恥ずかし自分であるが、とりすまして問答が始まつた。「便秘はされませんか」「ええ、便秘がちですので、リンゴをすつて汁を飲ませています。」「ええ、便秘にはリンゴは益々進めるのですね、そんな時には人参をすつて食べさせて

あげて下さい」と栄養士さんの指導を聞いてその通りにやつた。会話のやりとりのむずかしさ、自信をもつて本当に相手を納得させる様に話すことのむずかしさ等口下手な私には一層強く感じた。そして又、相談に来られる方は余裕のある生活をしておられる人達ばかりだということに気づいた。

後で栄養士さんも云つておられたが、保健所に来ることの出来る人はあまり来る必要がない即ち、それだけ子供に対する関心もあり、同時に又色色の事の出来る余裕のある人である。しかしもつと気の毒な赤ちやんがいる。両親の関心にはかわりがなくとも、それだけの余裕のない人、その人達こそ保健所がタッチすべきだと思う。保健婦の方がそのような家庭に伺つておられるとのことだつたが、栄養士が、本当にやり甲斐のある仕事の少しでも多く出来ることを願つてやまない。最後の日に、栄養士さんとの話し合いがあり、栄養士の立場を強いものにするため、全国の栄養士が手をつないで進歩の道をたどねならない、苦しいことも沢山あるが一生懸命がんばつてほしいと励まされ、どんなに苦勞をしても本当にやり甲斐のある栄養士としての道を歩みたいと心に誓いながら5日間の実習を終えて夕方の道を家へとはずませた。

日本レイヨン栄養実習記

短食2ノ2 橋 詰 弥 生

私達5人の実習生は、秋晴れのすがすがしい朝、待望の日本レイヨン宇治工場の門をくぐつた。今までのいくつかの実習の中で最も興味があつたのは工場実習であつたので、労務課長さんから色々と注意や説明を聞いている間にも、炊事場がどんな施設になつているのか早くみたいものだと思つた。やがて炊事主任さんに案内されて現場に行き、ここで栄養士の方に紹介された。その後種々の機械の操作や施設等についての説明を聞き、その後でその日の実習として当日の予定献立表の各栄養素の算定をする仕事が与えられた。

そこで分析表と首つびきで算盤でスラスラつと云いたい所だが肝じんの算盤が使えない。ようやく加減算が出来た程度で後は筆算ですませておく。私達は今更ながら算盤の技術の必要性を感じてお互いに青息吐息する。栄養士の方がその計算を普通1時間位ですると聞いて一同感心するやら恥ずしいやら。何故なら私達はそれをやるのに午前10時頃からかかつて午後4時頃によりやくまとめあげたが、5人の算定が別々でどれが正確なのかさえも分らない様な始末である。今まで栄養価算定などそれ程むずかしいものとは思つていなかつ